

故森本隆男博士追悼号の刊行に際して

1998年（平成10年）5月21日、忽然として逝去された森本隆男博士を哀悼し、謹んで先生の御霊前に『故森本隆男博士追悼号』を捧げます。

森本教授は、1955年（昭和30年）4月に関西学院高等部に入学されて以来、関西学院大学商学部、大学院商学研究科を修了され、さらに1968年（昭和43年）専任講師に就任されてから今日に至る迄40年余りの長きにわたって関西学院と関わってこられ、教育、研究さらに行政へと力を尽くしてこられました。

教授は厳しく、しかし愛情を持って教育にあたられ、教授に薫陶を得て活躍している人達は実業界においても学界においても枚挙にいとまがありません。

とくに研究面においては、関西学院大学の経営学の礎を築かれた故池内信行先生の最後の門下生として関学経営学を継承し、その発展に尽力されました。とりわけ、ご専門であるドイツ中小企業論の研究に心血を注がれ、その成果は博士学位論文『西ドイツ中小企業論』に集大成されています。また、学会においても、日本経営学会理事、アジア経営学会理事を歴任され、めざましい活躍をなさいました。また民間の各種団体から数多くの仕事を委嘱され、誠意をもってそれらにお応えになりました。

また、研究の傍ら1994年（平成6年）から1996年にわたって商学部長を務められ、その他教務主任、学生主任、大学院教務学生委員、大学評議員など多くの役職をも務められ、学部運営のみならず大学の運営にも多大な貢献をされました。

かの忌まわしい阪神大震災が起きたのは教授が学部長在任中でした。思い起こせば、そのときのお疲れが病いの遠因になっていたのではと推測されます。細身で一見頑強そうには見えませんが粘り強い性格で、研究に、教育にそして行政にその一身を捧げられてこられたお姿を我々は忘れることができません。

2

教授の一生そのものであったと思われる関西学院大学商学部として、深い感謝の意を表すために、ここに追悼号を発刊いたします。

終わりにあたり、この追悼号のためにご執筆いただいた先生方、そしてこの追悼号の編集にご協力いただいた論究委員会の先生方に厚くお礼申し上げます。

1999年7月

商学部長 今 井 讓